

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403699		
法人名	株式会社ホライズン		
事業所名	グループホーム内郷		
所在地	福島県いわき市内郷高坂町大町27-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和6年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活において出来る限り、身の回りの事が出来ることを続けられるようにの低下防止や歩行訓練、手すりにつかまり立ち運動を行い、ラジオ体操、パワーアップ体操、レクリエーション、食前体操、お口の筋肉強化運動、鼻呼吸にあいうべ体操を毎日必ず行っています。利用者と車でドライブや近隣内の散歩、近くのスーパーでの買い物など気分転換し、質の向上を高めています。また、医療との連携を大切にし利用者様の状態により緊急時には、主治医の意見やアドバイスなどの指示を仰ぎ、ご家族の方にも情報が分かるように体制を整えています。利用者様、ご家族の皆様が安心して生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の同業者と行事の連携したり、地域の行事に積極的に参加するなど、事業所を知って貰い、事業所の持っている力を地域に活用してもらえるようにしている。利用者がここで生活できてよかったとの言葉や笑顔が、その人の生きる力になり、その人らしく生活できるよう運動への取り組みを増やすなど、管理者・職員が一つのチームとなるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員ひとり、一人が理解し、利用者様の傾聴を聞き、家族と協力しながら利用者様の思いが実現できるように支援し、利用者様も安心して生活できるように努めています。	利用者の笑顔や、楽しいよ、等の言葉を聞けるときに、理念が生かされていると感じており、利用者様の思いをくみ取り、配慮しながら対応をしている。利用者が安心・安全で快適な生活できるよう、小さなことでも職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	近隣の同業者でイベントがありました。利用者様は、マスクを着用して参加しました。久々の交流でしたので利用者様もとても喜んでいました。近隣の方や同業者とも良好な関係を築いています。	事業所に隣接して同業者があり、行事などの時には互いに声を掛け合い交流しながら参加合っている。日常的に地域の方と挨拶や話をしており、コロナの感染状況をみながら地域から呼びかけがあれば、行事に参加したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症相談窓口として受け入れ、認知症への理解、支援方法を気軽に話しできるように地域に貢献しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	書面開催とした運営推進会議を取り組みホーム内の状況、活動を報告しています。	会議で祭りの情報を貰い、子供会の方達に利用者の方で獅子舞い踊りを披露して貰い、利用者には喜ばれている。災害時に地域の方たちと連携をとれるよう、災害計画などの情報を共有してゆきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告や疑問点がある場合には、すぐに市の担当者に相談をし解決するようにしています。介護への理解を深め、よりよいケアに努めています。	行政への提出書類の相談をしている。入居予定者の情報、感染や災害等の情報を提供してもらい、連携を図っている。介護相談員に、事業所や利用者の状況を伝え、利用者に合ったサービスを提供出来るようしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、指針を見ながら会議、ミーティングの時などに話し合いを行い身体拘束につながらないようにしています。	言葉の拘束について、命令口調などが見受けられた時には、職員への再指導や指針の読み返し、拘束防止委員会への参加を促している。職員は、身体拘束・高齢者虐待に関する研修を受け、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、指針を見ながら会議、ミーティング運営推進会議などでも話し合いを行い虐待防止に努めています。	虐待とは、身体的虐待だけではなく、暴言や無視、いやがらせ、必要なケアの放棄等が含まれることを具体的に理解している。管理者は職員の疲労やストレスが、利用者へのケアに影響しないよう、勤務などに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修に参加し、必要性がある場合は、関係者と話し合い、活動できるようサポートしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について十分な説明を行い、理解納得を図るように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を反映させるように日々の会話、表情、PCメール、ファックスでの通信などから組み取るように努めています。	玄関に意見箱を設置すると共に、日常の会話で利用者・家族の要望を聞いている。把握した意見や要望は、全職員で共有し、利用者・家族からの意見や要望が、事業所のケアサービスの質の向上に役立つと理解している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	毎月定期的にミーティングを行い意見や提案を聞く機会を設けたり、自主的にボードに意見を述べられるようにも努めています。	利用者がより良く過ごせるよう、毎日が楽しんで過ごしてもらえる提案を出して貰っている。職員から資格取得や研修会への参加の要望があったときは、勤務変更などをし、参加出来る様に調節している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の勤務状況を把握し、処遇への反映、向上、心を持って協力的に働けるよう職場環境・条件の整備に努めています。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の参加が少ないが予定が合う時は、参加させています。また、個々の力量に応じた研修で学んでいければと考えています。	事業所の運営規程にあるように、外部研修、社内研修をして職員の質の確保に努めている。一人の研修の機会を全職員が共有できるよう、研修報告書を書いてもらい、ミーティングでは研修報告を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流している法人との研修や情報を交換し充実させサービスの質を向上していけるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談できる機会を作り、できるだけ本人の要望に応じ安心して生活できるようにしていきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望などを聞き入れ、またホームの説明も行った上でサービスを導入しサポートしていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活が本人にとって良いのか家族の方やケアマネなどとも、お話し合いをする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合える関係を築いていければと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り支えていける関係を築けていきたいです。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のスーパーや馴染みがある場所までドライブしたり、長い間かかりつけだった医療機関など入所しても変わらずこれまでの関係を壊さない様に心掛けています。	現在は面会可能となっているが、時間制限やマスク着用をお願いしている。利用者の希望で花見や近くのスーパーに買い物に出かけている。家族、親族、住んでいた地域の近所の方などが訪問してくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を理解し、関わり合いを支え合えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、依頼があればできる限り対応し支援していきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	利用者様の傾聴を聞き入れ、ミーティングなどでも職員と話し合いをして、なるべく本人の意向にそえる支援になるように努力していきます。	利用者と職員が一对一で部屋で会話をしている時に思いを聞くことが多く、家の心配、帰宅願望などがあり、それぞれに合った会話の仕方に対応している。心配や寂しさが無い様に、多く会話で、安心できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りをし、できる限り把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人、一人の暮らし方の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと職員とが情報を共有して職員全員で話し合いを行い、また家族と話し合いをして、個別の具体的な計画でわかりやすい介護計画を作成するようにしています。	その人の持っている力を活かしたり、維持できるよう、一日の業務の中で役割を決め、その人に合った役割を担って貰っている。本人に聞いても無理と決めつけず、計画について本人と話し合い、意向やアイデアを反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録で情報を共有し、実践や見直しに活かしていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族の状況に応じた支援を行っていただけるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り、イベント、地域の図書館を活用したりと楽しむことが出来る様に交流し支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意見を大切にし、適切な医療が受けられるように支援していきます。	入居前からのかかりつけ医の継続も、事業所の協力医療機関でも可能となっている。歯科や耳鼻科は、本人の訴えや主治医の意見をもとに、必要な医療機関に受診している。受診は、家族や職員が対応し、受診結果は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックを定期的に行い、いつもと表情や変化があれば医療機関に相談し適切な看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報を交換したり相談し合い支援していきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできること、医療機関でできることを事前に伝えて話し合い、利用者様の状態が変わった時にも混乱がないようにチームで支援するように取り組んでいます。	重度化や終末期に、家族は医療機関からの説明や延命治療など、最後に向けての話し合いの場やケアに係わっている。職員は、重度化や終末期に対応できるよう、医療機関から対応方法を聞いたり、研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応は、職場内で話し合い、全員が統一して対応できるようにしています。また医療機関にも相談をして応急対応を教えて頂き実践力を高めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害計画書、避難計画書の計画があり、職員全員に避難方法手順を身に付けられるよう訓練は、行っています。万が一に備えて地域との協力体制も築いています。	訓練の時に、消防の派遣を要請したり、防災委託業者や地域の方に参加して貰っている。訓練後、消防から、避難の時間を早める方法や消火器の使用法の助言を受けている。火災や地震、感染症等を想定して訓練している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いにも気を付けながら利用者様の声掛けにも対応し、誇りやプライバシーを損ねないよう出来る限り受け入れ配慮しています。	命令口調、上から目線、威圧的な態度や言葉が無いよう、利用者への言葉かけやコミュニケーションの方法で注意している。会話の中で利用者の思いをくみ取り、プライドを傷つけないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に添えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは、決まっていますが利用者様のペースを大切に安心して生活できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせて清潔感のある身だしなみを支援しています。また、介助が必要な利用者様も衣類等に汚れがある場合は、声掛けにて交換し、清潔に対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	料理は、職員が調理するため、利用者様の好みを取り入れ出来る限り季節を感じられるような料理を考えています。食欲を高められるように食材や彩を考えて盛り付けをしています。	メニューは、職員が利用者の要望を聞き、季節に合ったものを心掛けて作成している。一人ひとりの食べる力に合わせ、その人のペースで食べられるよう調理している。行事に料理教室があり、利用者全員が参加出来るようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスや食事量を考え、利用者様が食べたいと思う料理を考えています。また、利用者様の水分量に関しても1日どのくらい水分を取っているのかも把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事する前のうがい、食事後の口腔ケアは、きちんと行っています。口腔ケアが困難な利用者様に対しては、職員で話し合いをして、口腔ケアが出来る限りにできるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様が出来る限りトイレで排泄が出来るように定期的なトイレの声掛けをしてトイレ誘導しています。	家族の金銭的な負担を減らし、失禁を増やさない為にもその人に合った定期的な声掛けやトイレ誘導をしている。失敗してしまった時は、尊厳に配慮しながら、失敗についての原因を職員で話し合い対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動への働きかけ、また飲食物を工夫してみてそれでも困難な場合は、主治医に相談します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様1名ずつゆっくりと入浴ができるように対応しています。入浴剤を入れることにより、利用者様の気持ちがリフレッシュされ気分よく上がられています。	入浴を嫌がる人には、嫌がる原因を職員で話し合い、どのようにすれば入浴して貰えるか何度も挑戦、試行錯誤しながら入浴して貰えるようにしている。衣類の着脱時には利用者の羞恥心に配慮し、バスタオルを利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに依ったり、その日の体調、気温など安心して休まれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬情報を理解して薬に変更があれば、症状の変化を観察し状況によっては、主治医に相談します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみ事を引き出し、気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車でのドライブ、近隣内の散歩、お買い物など出来る限り機会を設けています。またご家族の協力で外出することもあります。	季節を楽しむ事のできる花見や紅葉狩りに出かける機会を多くし、出かけるときはタオルやマスク、必要に応じて着替えや飲食物を持参している。その人の状態や生活習慣、持っている力、希望に応じて外出できるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族の方をお願いしています。本人が希望する物がある場合は、事業所で立替をして職員と一緒に買い物へ行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方から電話があれば利用者様とお話をしています。また手紙が届いたときは、直接利用者様にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて、利用者様と工作をした作品は、掲示し空間作りに配慮しています。	利用者は、本人が過ごしたい場所で自由にゆっくり過ごしている。歩行の安全のため、動線に物は置かず、距離を測り安全に通行できるようにしている。居心地よく過ごせるよう、エアコンや扇風機を使用し調整、管理を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い共同居場所を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	馴染みの物を持ってきてもらう事で、その人らしく安心して生活してもらえるように工夫しています。	ひとり一人の利用者の身体状況に合わせて、ベッドなど家具の配置をしている。居室を間違わないよう、居室ドアに名前を貼り、自分の部屋を分かりやすくしている。清掃や衣替えは、職員と一緒にいき整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱しないように、分かりやすく名称をつけて混乱せず安心して過ごせるように工夫しています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		身体拘束や虐待防止などの研修に参加できる職員が限られている。	その都度学んだ事は施設内で勉強会を開催し職員全員のスキルアップに繋げたい。	職員全員が参加出来るよう、勤務体制の調整をしていく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。